

岩手県大槌町 東日本大震災記録誌

生
き
る

証



岩手県大槌町 東日本大震災記録誌

生きる証

題字は安渡出身の永井さん
「尊い命に感謝」

表紙と大扉の題字「生きる証」の墨跡は、町立大槌学園出身で県立盛岡第一高校1年生の永井翔夏さん(16)の作品。毛筆を執る際、「生きる」ということに深く思いをはせたという。

震災当時、永井さんは安渡地区在住で町立安渡小学校(2013年閉校)の1年生。校庭で大津波を目撃し、「黒い煙」が町をのみ込んでいく光景や、大人たちに手を引かれながら土手の斜面を駆け上って避難したことを今も「鮮明に覚えている」。

かわいがってくれた近所のおばさんや身近な人たちが津波で亡くなり、ショックを受けた。「生きる」という震災記録誌の題名を聞いて、前向きな印象を受けました。亡くなった人たちの顔を思い出し、改めて感謝の気持ちが湧き起こりました。私もまた尊い命を生きています」

書道は震災の年、避難先の八幡平市で母・麻起さん(40)の勧めもあつて本格的に始めた。「私はこれから感謝の気持ちや自分の願いを大切にしたい。人生を歩んでいきたい。そして、いつか誰かを支えることができる人間になりたい。こんな思いを胸に日々、書に向き合う。盛岡一高でも書道部に属し、腕を磨く。」

●表紙絵／東日本大震災の津波と火災で、多くの尊い人命を失い、壊滅した私たちの町。震災から9年目、城山の頂上付近から眺望した中心街の町方地区と大槌湾の風景をモノクロのイラストにした。何もなくなつた町には徐々に住宅や商店が建ち、町文化交流センター「おしゃっち」も2018(平成30)年に完成した。この町に色を付けるのは、町民の皆さん一人一人。表紙絵に、そんな思いを込めた。



岩手県 大槌町

記憶の中で生きる、

私たちのふるさと



— 参加者 —

田中 正道

佐々木 結菜

佐々木 慎也

三浦 拓也

松橋 郁子

越田 征男

白沢 望鈴

(敬称略)



2018(平成30)年11月、末広町の町文化交流センター「おしゃっち」に集まったのは、10代から60代の町民の皆さん。東日本大震災以前の町内の写真を並べ、それぞれの記憶に残っているふるさとの風景を選び出した。子どもの頃に遊んだ場所、通学途中の思い出の風景、にぎやかに町を練り歩くお祭り行列……。

参加した年長者は、選んでいる間に、その風景にどんな思い出があるかを語りだす。そして、同じく参加した高校生たちは、その言葉に耳をじつと傾けている。自然と世代間交流が行われた。かつてここにあった建物、風景、そして、人の暮らしは、新鮮な響きを持って、高校生たちの心に響く。それは大人たちから若者たちに対して行われた「町の歴史」の授業のようでもあった。



町方地区(末広町) / 末広町商店街



町方地区(上町) / 旧大槌小学校前歩道橋



町方地区(上町) / 小鐘神社



安渡地区 / 漁港付近水門



吉里吉里地区 / 吉里吉里フィッシャリーナ

友達の家へ遊びに行く時によく通った道。
「よ市」で買い物を楽しんだ記憶がある。
(三浦拓也さん)



町方地区(大町) / 町立図書館



町方地区(本町) / 大槌駅



上町

祖父と散歩に来ていた思い出の場所。
小学校の頃も「まち探検」で来ていた。
(臼沢望鈴さん)



浪板地区 / 浪板海岸 大寒みそぎ



町方地区(上町) / 大槌小学校

高校生の頃、列車で通学していた。
列車の中から見えた大槌駅のホーム。
青春時代を思い出します。
(松橋郁子さん)

全ての写真に思い出があり
選ぶのが難しかった。
祭りの行列も本当に懐かしい。
(越田征男さん)



城山から見下ろす市街地と大槌湾

町を高台から撮影していて、
感じ取れるものがたくさんあった。
遠くにひょうたん島(蓬莱島)も写っているのいい。
(佐々木結菜さん)



吉里吉里地区 / 吉里吉里漁港

漁港の昔の写真を初めて見た。
(佐々木慎也さん)



町方地区(大町) / 図書館付近



浪板地区 / 浪板海岸から望む野島の朝日



町方地区(本町) / 大槌郵便局裏

友達の家裏。
この坂を登っていくと中央公民館につながっていた。
よくこの辺りでかくれんぼや缶けりをして遊んだ。
(田中正道さん)



震災前



2014年9月



2019年5月

大槌稲荷神社 (安渡地区)

毎年9月下旬には、大槌稲荷神社と小鐘神社の例大祭が行われている。2018年には、震災後は行われていなかった大槌湾での引き船が復活した。

～高校生の感想・思い出～
盛大な祭りをした。
鳥居が欲しい。

すえひろ 末広町周辺 (町方地区)

かつての商業の中心地。常連が集う飲食店や多くの商店が立ち並んでいた。

～高校生の感想・思い出～
盛り土が進んでいた。
電柱が増えた。



2014年4月



2018年12月



震災前



震災前



2014年9月



2019年5月

かみちょう こびょうばし 上町古廟橋付近 (町方地区)

町方の住宅街と大型商業施設をつなぐ道路。多くの町民が行き交い、バスの乗降にもよく使われていた。

～高校生の感想・思い出～
住宅の建築を進めて、
住民の日常の生活を
取り戻してほしい。

大槌駅 (町方地区)

町の玄関口。主に釜石方面への通勤・通学客が往来した。三陸鉄道リアス線の新しい駅舎のデザインは町民投票を行い決定した。

[高校生の感想・思い出]
列車が通るのを
楽しみにしていた。



2013年4月



2019年5月



震災前

大槌高校復興研究会が見つめてきた 大槌町の風景

東日本大震災で、県立大槌高校は避難所としても大きな役割を果たした。その大槌高校の生徒たちが、2013(平成25)年に立ち上げた復興研究会。町内約180カ所で定点観測を行い、町の変化を写真に収め続けている。若者たちが見つめてきた震災前と震災後の町の風景の変化をここに紹介する。



震災前



2014年4月



2019年5月

なみいた 浪板海岸駅 (浪板地区)

駅舎はなくホーム上に待合室がある無人駅。2019年3月23日、JR東日本から三陸鉄道に移管され、列車の運行が再開された。

～高校生の感想・思い出～
駅のことを思うたびに
小さい頃を思い出す。

きりきり 吉里吉里海岸 (吉里吉里地区)

吉里吉里の地名の由来は、アイヌ語で「白い砂浜」の意味。砂の上を歩くと「キリキリ」と鳴るからという説もある。夏には海水浴客でにぎわう。

～高校生の感想・思い出～
朝5時に集合して
清掃活動を行っていた。



2014年4月



2019年5月



震災前



震災前



2013年9月



2019年5月

ほうらい 蓬莱島 (赤浜地区)

「ひょっこりひょうたん島」の愛称で呼ばれる。東日本大震災の津波で一度失われた灯台も再建され、大槌湾にかわいらしい姿を浮かべている。

～高校生の感想・思い出～
大槌と言えば!



町のシンボル蓬萊島を背に集った町民の皆さんと平野公三町長(左から2人目)

今、これからの「生きる」

大槌町東日本大震災記録誌『生きる証』の発刊に当たり、まずは震災でお亡くなりになった870人の方々に心から哀悼の意を捧げるとともに、現在も行方不明である416人の方々が一日も早くご家族の元へ帰られることを願ってやみません。東日本大震災津波から8年が経過し、復興が進む一方で、当時の惨状と記憶を風化させず、事実と教訓を確実に後世に伝えていくことが震災で生き残ったわれわれ町民の重要な責務であると強く感じており、この記録誌に寄せる思いは並々ならぬものがあります。

震災記録誌の作成に当たり、町の被災と復興の過程を克明に書き記すことはもちろん、町で生きていく方々の力強い声や、ご支援への心からの感謝を「町民自身の言葉」として伝えることを大きな柱に据えてまいりました。

そして、表舞台には出なくとも、縁の下の力持ちとして復興に貢献された町内外の方々にも登場していただくなど、本誌は町民や支援者が主役の「血の通った」記録誌とすることができるともありません。「あの日から今を生き、これからも生きていく」——。そんな感慨を込め、この震災記録誌を『生きる証』と名付けました。

未だ復興のさなかにある大槌町ではありませんが、世界中から手厚い支援を頂き、着実に前進しております。新しいまちづくりに関わってこられた全ての方々一人一人に、心から感謝の気持ちをお伝えしたい思いでいっぱいです。

この記録誌が多くの方々の目に触れることにより、震災の教訓と反省を後世に継承し、今後起こり得るあらゆる災害で一人も犠牲者を出さないことの一助になれば、と切に願っております。

2019年(令和元年)7月

大槌町長 平野公三

002 記憶の中で生きる、私たちのふるさと
 008 はじめに
 010 目次

第4章

047 震える、惑う
 緊急期の町
 048 発災直後
 1日目／2日目／3日目
 062 町民の証言
 越田 征男さん／高木 正基さん／高橋 和夫さん／赤崎 仁一さん

第1章

大槌町とは

013 町の概要
 014 町の歴史
 016 【Episode file】あこのろの大槌 内金崎 大祐さん

第2章

東日本大震災とは

019 地震・津波の概要と被害
 020 【Episode file】大槌の津波 小林 正人さん

第5章

逃げる、救う 応急期の町

069 災害対策本部の設置
 070 避難の状況
 072 吉里吉里地区／赤浜地区／安渡地区／町方沢山地区／
 小枕・仲松地区／桜木町／金沢・小鉤地区
 085 在宅避難者の状況
 086 支援助資分配
 087 医療活動
 088 救助・搜索活動
 089 燃料・電力の確保
 090 犠牲者への対応
 091 遠野市の後方支援
 092 【Episode file】避難所の日々 真壁 香利さん

第3章

私たちが襲った津波

025 「平成の大津波」襲来
 026 大槌町の被害
 028 津波火災の猛威
 030 各地区の被害
 032 吉里吉里地区／浪板地区／赤浜地区／安渡地区／
 町方地区／沢山・源水・大ヶ口地区／小枕・仲松地区
 046 【Episode file】大槌の津波 小國 峰男さん

第6章

直す、立ち上がる 復旧期の町

095 がれきの撤去
 096 道路
 098 水道・ガス
 100 教育
 102 医療
 104 心のケア
 106 応急仮設住宅
 108 災害公営住宅
 110 水産業
 112 農林業
 114 商工業
 116 仮設商店街・事業所
 118 郷土芸能・祭り
 120 応援職員の活動
 122 立ち上がる人々
 126 おおつちありがとうロックフェスティバル／
 一頁堂書店／大槌陣屋／
 はまぎく若だんな会／おらが大槌復興食堂
 136 【Episode file】広報おおち

第7章

集まり、支える ボランティアの活躍

137 ボランティアセンターの運営
 138 初期の状況
 142 中期の状況
 144 後期の状況
 146 支援者はある時
 148 トヨタ自動車東日本株式会社岩手工場
 認定NPO法人グッドネーバーズジャパン
 150 明治学院大学の活動
 152 【Episode file】ボランティア 巖洞 秀樹さん

第8章

「新しい町」をつくる

153 町民主体のまちづくり
 154 吉里吉里地区／赤浜地区／安渡地区／町方地区／
 沢山・源水・大ヶ口地区／小枕・仲松・浪板地区
 166 新しい町の取り組み
 172 町文化交流センターおしゃっち／小中一貫教育／
 復興まちづくり大槌株式会社／コミュニティー形成支援
 【寄稿】坂口 奈央
 174 おらほのまちは、おらほで——大槌町の復興まちづくり
 【Episode file】まちづくり 中井 祐さん

第9章

この町と、人と

資料編

175 この町で生きていく

大槌高校生が聞いた16人の東日本大震災

高橋 英悟さん／佐藤 壽さん／煙山 佳成さん／東梅 守さん／

東梅 英夫さん／芳賀 正彦さん／齊藤 和希さん／菅野 祐太さん／

芳賀 博典さん／金崎 伊保子さん／一般社団法人おらが大槌夢広場／

おおつちおばちゃんくらぶ／末広町商店街／一般社団法人Tsubomi

176 【寄稿】指導者はこう思う

この町を心に

前川 剛大さん／平野 恵里子さん／ノリシゲさん

214 【Episode file】東北大学社会学研究室

第10章

「ありがとう」を今こそ

215 あの日、あの時の小中高生から

みんなからありがとう

216 今、伝えたい 感謝の言葉

222 言葉以上の恩返しを 東 あずささん

第11章

忘れず、伝える

223 旧庁舎で何があったか

240 風化に抗う

224 納骨堂／鎮魂の森／生きた証

242 【寄稿】坂口 奈央

旧庁舎のまなざし——保存と解体、二つの論理の背景にあるもの

245

被災概要

250 復興の歩み —大槌町の8年—

254 参考文献・取材協力・制作スタッフ

凡例

- 震災の被害に関する各種データは町役場発行の「東日本大震災津波 大槌町被災概要」による。
- 記事中の人物の満年齢や肩書きは原則として取材当時。ただし、第11章の「旧庁舎で何があったか」で証言した役場職員の肩書きは震災当時。
- 記事に登場する現役役場正職員は敬称略。